



2003卒 成澤 徳子

京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科修士課程
(静岡出身)

なぜ大学に行くのか、なぜ経済学部なのかを正直あまり深く考えず、明確な将来ビジョンも見出せぬまま入学した私にとって、高崎での4年間は自分探しの場でした。もともと途上国に関心があり、できれば将来は国際協力関係の仕事に就きたい…などという漠然とした思いはありましたが、実際そのために何を学び、どのような方向に進めばいいのか、はっきりしませんでした。私がきっかけを掴むことができたのは、ある先生の講義を受講し、その先生のゼミに入ったからです。講義、ゼミの選択に限らず、何事にも積極的に取り組み、チャンスはいくらでも広がると思います。

「柔軟性と一貫性。」相矛盾する命題ですが、勉学に励むうえで、これらを調和するよう心掛けるとよいでしょう。まず、事実を凝視する。次に自分の頭で考え、事象体系的に理解する。理論はその限界をわきまえ、自らが得た結論の検証や補強にとどめる、といった具合。また、時流や流行りの論調に惑わされない。自分の姿勢に心棒（辛抱）を入れる。潮流変化のうわべではなく、本質を見極める。

スマートな単位取得も結構ですが、今こそが真摯に学問と格闘し、多様な視座を育む好機。時代がどう動こうとも、変化する価値観に耐え得る何かを学び取って下さい。

西山 輔

日本銀行札幌支店（北海道出身）

2001卒



M E S S A G E

卒業生からのメッセージ ①

受験勉強からの解放感と、こんなはずじゃなかったという挫折感を引きずったまま迎えた大学生活。流行の言葉で表現するなら「負け犬」といったところだろうか。「あの大学でなければできない」「大学のランクが…」という、受験生時代の妄想。なんとも枝葉末節なことに気を取られていたものだ。

それから12年を経て、いまの自分が後輩である皆さんに伝えることは、「やってみなきゃわからない」ということだ。全国各地から集まる仲間との下宿やアパートでの交流、少人数ゼミなど、高経ではあたりまえと思える環境が、実は極めて貴重であること。少し視野を広げてみて欲しい。そしてやりたいことにチャレンジして欲しい。その時きつと、高経で良かったと思うことだろう。



1994卒

森 久綱

三重大学人文学部
(静岡出身)



2003卒

前田 幹直

豊田合成株式会社（愛知出身）

特に勉強ができるわけではないけど得意の自動車ネタで、事務系ながらいきなり技術の話ができる新人（知ったかぶり含む）として、エンジン・シャシーなど車の走りに関する機能システムの営業を担当しています。

でも1円が命取りになる市場規模のでかさ、ネジやバネひとつとっても、管理されている技術の奥深さに圧倒され、仕事がかどりません。この先、仕事ができるようになるか不安になります。「やめれば？」と言われればそこまでですが、「石の上にも3年。」すぐに投げ出さず、自分と向き合い、弱点を補いながら頑張るつもりです。

自分を「改善」することは苦痛を伴うこともありますが、自分の成長のためと思って我慢することがときに必要だと言いつけています。だからせめて、ここでだけ愚痴らせてください。つらいんだって！



1999卒

山形 卓也

青森県庁（青森出身）

勉強とは、おそらくヒトの本能だろう。誰しも心の奥底には勉強、即ち事象を知りたい、理解したいという抑えがたい欲求が脈打っている。だから勉強を語るに臆することはない。せっかくの機会だ。欲望のまま、勉強をむさぼってほしい。勉強を直視しよう。勉強して論議しよう。論議して鍛えよう。自分で考える勇気を、人の立場になって考える優しさを。勉強を通じた様々な経験、可能性の追求こそがあらゆる意味で人間を豊かにし、大人にすると思信している。